

教科書の特徴

教科書名：COMET English Communication III (104 数研 CⅢ715)

① 内容

- A. 学習者に親しみやすく、かつ、多面的・多角的に捉えて深く考えることができる内容の題材を選んでいる。Lesson 2 (バイオミメティクス)、Lesson 3 (アンカリング効果) は学習者の日常に関係する話題で取り組みやすく、Lesson 4 (アニマルウェルフェア) や Lesson 10 (チョコレートと児童労働) では、身近なものを通じて社会や世界について深く考えることができる。また、Lesson 7 (バーチャルウォーター) や Lesson 8 (ドレスデンの決断) では、新しい視点や異なる立場の考えを通じて、問題を多面的・多角的に考えることができる。さらに、Lesson 9 (レジリエンス) のような、自己肯定感・自己効力感を高めるのに役立つ題材や、Lesson 5 (働き方を考える) のような、職業や進路を意識することができる題材も収録している。
- B. 題材内容を一方的に与えるだけでなく、学習者自身の意見を引き出したり、クラスメートに意見を聞いたりする活動を設けるなど、4技能5領域を統合的に関連させる活動を用意している。
- C. 文法事項はすべて「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」で既習のものとし、反復活動による確実な定着を目指した。
- D. 社会生活において活用できる英語力の育成を目指し、身近に考えることのできる題材や実生活を意識した言語活動を随所に盛り込んだ。

② 構成・分量(単元の配列や特色・分量)

- A. 見開き構成で本文と活動がまとめられており、運用計画が立てやすいように配慮されている。
- B. 本課は2セクション構成となっており、習熟度や目的に応じて学習することができる。
- C. Section Ⅰではパートごとに内容を丁寧に理解することができる。また、レッスンの目標達成に向かって各活動がリンクしており、各活動を通じてトピックの理解を深めることができる。
 1. 導入の見開き：
 - ・扉に GOAL としてその課の到達目標を示し、右ページ上部で5領域別の目標を確認できる。
 - ・Warm Up では、ピクチャー・ディクショナリーで GOAL 達成のための活動に使える語彙を補強できる。
 - ・Say It! では、Warm Up で学んだ語句を英文の中で確認することで、使用のイメージを喚起し定着につながるよう工夫している。
 - ・トピックに関連したリスニングクイズとそれに基づく対話活動で、レッスンへの興味付けができる。
 2. 本文右ページ：
 - ・Points to Check (代名詞が指す内容等の確認) ・Comprehension (本文の内容把握問題) ・What Do You Think?など (本文内容に関連した自己表現活動や調べ学習) となっており、本文を繰り返し活用して理解へと導く構成になっている。

3. 課末ページ：

- ・GOAL Activity はレッスンの GOAL を達成するコミュニケーション活動となっており、ステップで段階的に取り組めるよう工夫されている。

D. Section II では、まとまった量のより深みのある題材の英文を読むことで、発展的な読解活動に集中できる。

1. 本文ページ：

- ・英文が見開きで 4 パート続き、全体の内容を理解することができる。

2. 課末ページ：

- ・Comprehension (本文の内容把握問題) は、各問題が各パートに対応しており、最後の問題では英文全体の内容が確認できるよう工夫されている。

E. 本課は Lesson 2 までは 2 パート構成に抑え、読解量・英文レベルともに「英語コミュニケーションⅡ」とのスムーズな連携に配慮している。

F. 本課以外の活動につき、コラム (つなぎ表現, 英語の発音・アクセント, 数の表し方) や Activity (ニュースの報道を聞く, 2 つのコラムを読む) などで、学習者が英語の知識を深め、4 技能 5 領域を統合的に用いることができるよう配慮している。

G. Lesson 7 と 10 のあとに Reading を収録しており、長期休暇の課題などに利用することができる。

H. 巻末の Grammar for Expression では、各課の文法事項を確認し、かつ簡単な表現活動によって主体的に学習できるよう工夫されている。

③ 表記・表現 及び 使用上の便宜

A. 新語は脚注ではなく傍注であるため、目の動きに沿って追うことができる。また、発音記号には、初学者が積極的に発音するきっかけとなる、カタカナによる発音表記を併記している。

B. 表現活動には全般的に TOOL BOX として豊富な例を提示し、学習者が無理なく取り組めるように配慮している。

C. 内容に即したイラストや写真が多く、魅力ある紙面構成となっている。

④ その他

A. 巻末 Word List には、本書で扱った語の品詞や名詞の可算・不可算、動詞の活用、形容詞の比較変化などを記している。利便性の向上とともに、語彙への関心を高める配慮となっている。

B. 表現活動のサポートとして、巻末 TOOL BOX Plus に各課の活動で使える語彙を掲載している。

C. 後ろ見返しには、動詞の不規則変化一覧を掲載しており、動詞の変化について基本的な理解が促進されるよう配慮している。

D. 判型は AB 判でゆとりのある紙面構成とし、写真やイラストを効果的に提示している。